



# 朝五中だより

平成30年6月1日発行  
朝霞市立朝霞第五中学校

〒351-0031 朝霞市宮戸 1580 HP <http://www.asakadai5chu.city-asaka.ed.jp>  
TEL 048(471)2236 FAX 048(476)1328 E-mail 5chuu@asaka-c.ed.jp

## やる気を育てる「魔法の言葉」

校長 原口 憲充

過日行われた体育祭には多くの保護者の方にご来校いただき本当にありがとうございました。限られた時間の中での準備と練習でしたが、全員で力を合わせて創りあげた体育祭となり、たくさんの方々に応援していただきましたことを職員一同嬉しく思っております。子どもたちは次に控えている学校総合体育大会に向けてまた頑張っているところです。

さて、部活動に限らず、学習やお稽古事など、いろいろな事に対して、子どもたちには「やる気」を持って取り組んでほしい・・・と願うのは教師も保護者の皆様も同じだと思います。どうしたら子どもたちは「やる気」を持つのでしょうか？そもそも「やる気になって頑張れ！」などと声をかけたところで、実行できる人はごくわずかでしょう。

私は、「やる気」は時間をかけて「育てる」ものだとは考えます。「やる気」を育てるには、まず子どもに目標を持たせること。この目標の設定で大切なのが、「自分に合った目標を、自分で考えて、自分で決める」ことです。はじめから難しいことに挑戦するのではなく、努力すれば確実に達成できる「スモールステップ」での目標設定が良いとは私は思っています。

小さな壁を自分の力で乗り越えることができれば、「次も頑張ってみよう。もっとやってみよう」という気持ちが育ってきます。子どもたちが、自分の壁を乗り越える様子が見えたら、今度は大人の出番です。子どもの努力してきた様子を認め、褒めてあげてください。褒めるときは真剣に、本気で褒めてあげてください。子どもたちは、素直に喜ぶと同時に「次へのステップにチャレンジしてみよう」という意欲を見せるでしょう。万が一、失敗したときは「怒る」のをぐっと我慢して、なぜ失敗したのかよく考えさせ、そのうえで、叱るべき理由があったときに叱ってください。

赤ちゃんがいきなり立ち上がって歩くことはできません。何度も転んで、そのたびに親が「がんばれ！」と声をかけ、初めて歩いたときにはみんな「喜んだ」はずです。子どもたちは、いつの時もその時と同じ優しさや達成感を求めています。子どもたちをやる気にさせる「魔法の言葉」は、きっと我々大人が持っているものだと思います。